

# 令和5年度 越前市白山小学校スクールプラン

## めざす学校像

- ・児童一人一人が輝き、個々の可能性を信じ、未来に向かって歩み続ける学校
- ・豊かな自然を享受し、美しい環境に包まれた安心安全かつ持続可能な学校
- ・保護者や地域から信頼され、子供を主語とした学校

## 学校教育目標

豊かな心、健やかな体、確かな学力をベースとして、可能性を引き出し、未来を生きる力を育成する  
～ウェルビーイング 探究的な学びの、その先へ～

## 学習指導要領

福井県教育振興計画  
越前市教育振興ビジョン  
～人間力を高める教育の充実～  
教師の願い 保護者・地域の願い 児童の実態

## めざす教師像

- ・情熱と危機感、そして大きな愛情をもって児童に寄り添い、児童の可能性を信じ、学級や学校の小さな違和感に気づくことができる教師
- ・人間力、授業力向上をめざし、常に学び続ける教師
- ・同僚性を高め、連携・協働できる教師

## めざす児童像

「かがやけ！白山っ子」

- ① かがえ探究し続ける子 白山のために② がんばる子
- ③ やさしく思いやる子 ④ けんこうな生活をする子

## 研究テーマ

確かな学力の定着と未来を生きる力の育成  
～ICTの可能性をひろげ、自己を表現する力の向上をめざして～

## 重点目標

### かがえ探究し続ける子

- ◎「わかりやすく深まる授業」の実現をめざした教職員個々の授業力の向上
- 基礎・基本の確実な定着と自らが考え、自己決定し、学習したことの意義や価値を実感できる活動の充実
- 家庭と連携した読書活動の推進
- 家庭での学習習慣の定着と学習内容の充実

### 白山のためにがんばる子

- ◎Shirayama-SDGs⑤を実践し、白山の未来と自己のあり方や生き方を主体的に考える子の育成
- 地域の人的資源・物的資源の活用とウェルビーイングを意識した、しかけのある探究学習の推進
- 地域社会との双方向的な交流(探究学習発表会)
- 保護者や地域との協働をめざした積極的な情報発信

### やさしく思いやる子

- ◎道徳科を要とした道徳教育の充実と人権意識の向上
- 明るく気持ちのよいあいさつの習慣化
- 児童が安心できるルールづくりと安定感のある学級経営(居場所づくり・絆を深める集団づくり)
- 教育相談の充実及び教職員の児童の変化や違和感に気づく力の強化

### けんこうな生活をする子

- ◎Shirayama-SDGs③を意識し、よりよい生活習慣に関する知識をもち、自ら選択し実践できる子の育成
- 進んで運動をする習慣の定着と家庭と連携した正しい睡眠習慣やメディアルールに関する啓発推進
- 個々の児童の危機管理能力の向上
- 生涯学習の理念に基づいた健康教育と食育の充実

## 具体的な取組

- ・少人数学級のよさを生かした「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、子供を主語にし、様々な形で自己を表現できる場面を取り入れた授業研究を行う。各教科で基礎・基本の定着を図ることを最重点に置き、さらに習得した知識を深化させる探究的な場面や活用をしたり、表現をしたりする場面でも効果的にタブレットを使用し、ICTの可能性のひろがりをめざす。
- ・学校図書館支援員や図書ボランティアと連携した読書活動や環境整備を行い、児童の読書量を増やす。(家庭と連携した親子読書や週末読書の推進)
- ・家庭学習の内容の工夫とタブレットの活用などにより、家庭での学習の習慣化と質の向上を図る。

- ・Shirayama-SDGs に関して、地域と連携し、⑤「陸(白山)の豊かさを守る活動」について自分の課題をもち、探究することができるしかけを学習活動に組み込む。同時に、ウェルビーイングについて考える学習も取り入れ、自分自身と地域の今後のあり方について前向きに考える心を育てる。
- ・Shirayama-SDGs に関する学習の発表会を地域に公開し、地域からのレスポンスを受け取ることで、双方向の意見交流を行い、白山の未来と自分のよりよい生き方について考える機会を設ける。
- ・学校だけでなくホームページ等を充実させ、学校の教育活動の成果や児童の様子を積極的発信する。(各担当が毎月2回以上のホームページの更新)

- ・道徳教育や人権教育、縦割り班活動を充実させ、他を思いやる気持ちや自己有用感を高め、いじめや不登校のない学校をめざす。
- ・家庭や地域と連携して、あいさつ運動を推進する。校内では、委員会活動の一環として、目を見て笑顔で自分からあいさつができるよう、全校児童に働きかける。
- ・児童の小さな変化(違和感)に敏感に気づき、特別支援教育との連携を通じて多様性や個性を尊重し、互いに認め合い、高め合うことができる温かな学級づくりを推進する。
- ・一人一人を大切に児童理解と個に応じた支援活動に取り組む。(教育相談顧問や教育相談アンケート、いじめアンケートの実施)

- ・家庭と協力して、帰宅後の時間の使い方やネット利用のルールを決め、睡眠時間や食生活等の望ましい生活習慣を育成する。
- ・様々な運動にふれる機会を設定し、児童が体を動かすことの楽しさや気持ちよさを味わうことができるようにする。
- ・交通安全教室や避難訓練、その他の活動を通して、児童の安全意識を高め、自分の身を守る方法を伝え、児童自身の危機管理能力を育てる。
- ・教科指導や学校行事等を通し、Shirayama-SDGs③「すべての人に健康や福祉を」に関する学習の充実を図る。

## 数値目標

- ・対話を通して、自分の考えを深めたり、広げたりする研究授業を年2回以上実施した教員 100%
- ・読書が好きな児童 80%以上
- ・自ら進んで家庭学習に取り組む児童 90%以上
- ・タブレットを学習に活用できる児童と教員 100%

- ・自分の住んでいる地域が好きで、地域よりよい未来について考えることができる児童 90%以上
- ・地域教材や地域の人材を活用し、地域学習を充実させた教員 100%
- ・学校の情報発信に対する保護者の満足度 95%以上

- ・道徳科の時間に考えを深めることができる児童 90%以上
- ・気持ちのよいあいさつができる児童 90%以上
- ・学校に通うのが楽しい児童 95%以上
- ・相手の気持ちを考えた言葉遣いができる児童 90%以上

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」や「メディアルール」など、健康的な生活習慣を身につけている児童 90%以上
- ・家庭で決めた約束を守っていると回答する保護者 85%以上
- ・進んで運動したり体を使った遊びをしたりしている児童 85%以上

## 業務改善のための取組

- 行事や時程表、業務内容の見直しのさらなる推進と業務の明確化・適正化
- 校務支援システムなどを活用した事務・打ち合わせの効率化(ペーパーレスの推進)
- 会議等の精選と終了時刻設定の徹底
- 高学年における教科担任制の導入
- 勤務時間や校務効率に関する教職員の意識改革(ボトムアップで業務改善を進める体制の構築、放課後業務予定表・ToDo リストの作成など)
- 時間外在校時間月80時間以上とならないための月半ばでの面談及び働き方支援
- 個人の前年度同月の在校時間1割以上の削減